

## 「オーストラリア研修での学び」

藍住東中学校 内海 翔

僕は今回の海外派遣事業でたくさんの思い出を作ることができました。ホストファミリーと合流するまでは英語で会話ができるか、ホストファミリーに迷惑をかけないかとても不安でした。しかし、ホストファミリーは僕たちに対してゆっくり話しかけてくれたり、理解できない言葉があると別の言い方で伝えてくれたりするなど親切に接してくれました。

ホストファミリーとの生活は、海外旅行にきた学生を観光に連れていくというよりは普段の生活を僕たちに一緒に体験させてくれるものだったように思います。ホストがやっているラグビーの試合、お母さんが指導しているキックボクシング教室に連れて行ってもらいました。スポーツの良いところは言葉が無くても十分楽しめることだと感じました。家では自己紹介や藍住町についての説明にチャレンジしてみました。僕のたどたどしい英語に興味を持って聞いてくれたことがとてもうれしかったです。

一番印象に残っているのは学校での活動です。学校では主に午前中は日本の生徒と英会話の練習をし、午後からはオーストラリアの生徒とダンスやラグビーをしたり授業を受けたりしました。



学校に通う中で驚いたことが三つあります。

一つ目は休み時間についてです。オーストラリアには日本にはないモーニングティーという文化がありました。モーニングティーとは日本でいう行間休みのようなもので二十分ほどの休み時間のことです。モーニングティーの間、バディの生徒たちとおやつを食べながら話したり、ボールを使って遊んだりしました。休み時間に果物やおかしを食べてもよいことに驚きました。

二つ目は習う教科についてです。日本の中学校では九教科習っていますが、オーストラリアでは経済学、情報学、宗教学など二十一教科習うと知りました。僕は実際に午後から「ドラマ」という教科の授業を受けました。「ドラマ」は映画を鑑賞してそこから学びます。その授業ではスクリーンを使ってシャーロックホームズを題材に、シーンを止めながら登場人物の気持ちなどを話し合い、日本の国語に似ていました。

三つ目は通学方法についてです。オーストラリアではほとんどの生徒が車やスクールバスを使って通学していました。改めて日本の治安の良さを感じました。

僕は、この海外派遣事業の直前に韓国へ行っていました。その入国で食べ物を持ち込んでいました。今回のオーストラリアへの入国は、事前に食物や植物の持ち込みはできないと聞いており、何が違うのかと思っていましたが、行ってみてよくわかりました。オーストラリアは固有の動物が多く、みんなで大事に守っていると感じました。

今回の研修で動物保護や海外の文化に興味を持つことができました。今後は海外と日本や藍住町の関わりに興味をもち、機会があれば参加したいです。海外へ行くだけでなく、来られた外国の方との交流にも関わってみたいです。

